

(3) 共同化科目担当者会議

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター／京都府立医科大学 教授
上原 正三

今年度は、2015年8月5日に、共同化科目担当教員、機構教員が出席して共同化科目担当者会議が開催された。実際に共同化科目を担当することで浮かび上がってくる問題点なども含め、担当講義などについての報告と意見交換が行われた。

共同化科目に関するさまざまな情報を共同化科目担当者で共有することにより、共同化科目の教育の質向上につながり、本取組に役立つ有用な会議の一つであると考えている。

会議は、昨年度実施した三大学機構による各共同化科目共通の授業アンケート、共同化科目への取組全体に関する3大学全1年次生へのアンケート、および共同化科目担当者へのアンケート結果の報告からはじまり、つづいて

- * 歴史の中に理系の興味を
～環境・農業・衣食住～
- * 物理学の'言葉'を題材にした授業について
- * 講義で物理学(科学的)な思考を促せるか?
- * 学問の体系を伝えることと学生の興味は両立できるか?

と題してのそれぞれの教員によるまとまった報告があり、出席者全体での議論へと進められた。

アンケート報告については、現段階ではこのアンケートを始めたばかりで経年経過はみることは出来ない。そのため、特に共同化科目取組全般に関する全1年次生のアンケートは集計結果の確認程度の報告にとどめられた。

授業アンケートにおいても、時間的な制約からも報告では科目毎のデータ解析の詳細までは触れず、少数の設問を例に全体的な傾向についての的を絞った報告であった。

共同化科目担当者へのアンケートは記述式であり、本会議での全体議論のためにも、いくつかの具体的な意見、感想が報告された。

個々の報告については、事前に、いわゆる学問分野と専門分野が異なる学生も同時に同じ講義室で受講する教養教育科目として提供するに際して、講義内容、構成の考え方、さらに具体的な工夫などあればそれらも報告に含んでいただくように依頼されていた。

例えば、自然科学系科目は専門基礎として講義される場合、ガッチリと組まれた体系的にまとまった内容の講義となることが通例である。一方、文化系学生も一緒に受講することを前提とする本共同化科目では、焦点を絞る方法や、いくつかのトピックスでこのような考え方、見方をする学問分野があることを文科系学生にも理解されるような講義を心掛けているなどの報告があった。

その他、全体討論では、受講に見られる3大学の学生に共通する点、異なる点などについて、受講者数に対応して講義内容をどのように変えるかなどについても意見交換がなされた。

アンケート結果から共同化科目の良い点、問題点を読み取ることや、学生の変遷を経年変化から見出すだけでなく、実際の担当者の意見交換により具体的な事例も報告され、新たな問題点、課題も見えてくることも多いと考えられる。

さらに、年度が変われば担当者や科目の入替えもあることから、共同化科目の質保証のためにも今後もこの会議を開催していく予定である。